

“元気な秋田”が大集合！

「全県商工会おもてなしまつり」「第24回ふるさと踊りと餅っこ祭り」

（表紙から続く）「おもてなしまつり」には、県内の物産や観光郷土芸能が一堂に集合、25日に開催された「第24回ふるさと踊りと餅っこ祭り」とともに、第59回全国植樹祭のプレイベントとして「元気な秋田」を市内外にPRしました。

目抜き通りが歩行者天国となった商店街では、角館飾山ばやしなど県内三大ばやし、西馬音内盆踊り、綴子大太鼓、ヤイトセなどの芸能が披露されたほか、全県23商工会が出店した「ご当地自慢PR&イケめしストリート」が各地域の特産品等をアピール。また、商店街の空き店舗では商品の紹介と販路拡大を図る「ビジネスマッチングフェア」も開かれ、各ブースのスタッフが流通業者らに売り込みを図っていました。

▼ご当地自慢PR&イケめしストリート(24・25日)



「おもてなしまつり」の興奮さめやらぬ25日は恒例の「ふるさと踊りと餅っこ祭り（和田テエ子実行委員長）」が開催され、色とりどりの手作り餅を買い求める人、ふるさと踊りの見物客などでこの日も商店街は終日熱気に包まれました。

綴子大太鼓



▲ビジネスマッチングフェア(24・25日)

▼ヤートセ踊り(24日)



◀地域婦人会、商工会女性部、J A女性部、婦団連たかのすふるさと太鼓、同子ども太鼓など総勢約500人が参加した「ふるさと踊り」(25日)

◀婦団連たかのすふるさと太鼓



▶県指定無形民俗文化財にも指定されている八郎潟町の伝統芸能「願人踊り」(24日)

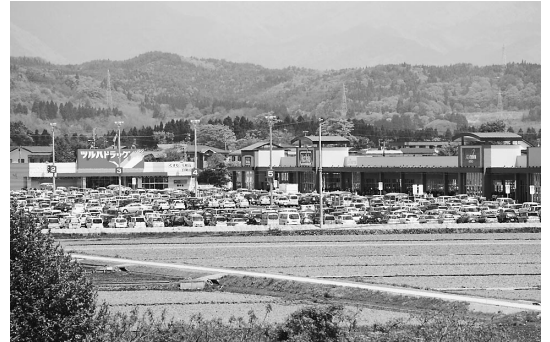


角館飾山ばやし

2つの大型商業施設がオープン

栄地内 「イオンタウンたかのす」と「たかのすモール」

◇既存商店街でもさまざまな誘客事業を展開◇



▲5月、相次いでオープンした大型商業施設「イオンタウンたかのす」(右)と「たかのすモール」(写真は施設内の核店舗・いとく鷹巣SC)。既存商店街を含め、市内ではホットな商戦が展開されようとしています

市栄地内に建設中だった大型商業施設「イオンタウンたかのす」と「たかのすモール」がこの5月相次いでオープンし、鷹巣地区を中心に市内の既存商店街を含めたホットな商戦が展開されようとしています。

＊ ＊

この二つの商業施設はマックスバリュ東北株式会社(本社・秋田市)が建設を進めている「イオンタウンたかのす」と、(株)伊徳(本社・大館市)が事業主体の「たかのすモール」。両施設は国道105号線と県道大館鷹巣線の交差点を中心に対角線上に相対し、かつては田園風景が広がっていた栄地区の景観を一変させています。

イオンタウンはスーパーのマックスバリュを中心としてホームセンターの「サンデー」、ドラッグストアの「ツルハ」、衣料品の「しまむら」などで構成されています。

敷地総面積は中綱地内の8万5856㎡。店舗面積の合計は1万4133㎡で5月10日にはマックスバリュ棟のスーパーとツルハで先行オープン、6月5日には全施設のグランドオープンが予定されています。



▲既存商店街でもさまざまな事業を展開し、誘客を図っています(写真は5月18日に開かれた鷹巣駅前商店街での軽トラック市)

千葉県千葉市)も平成4年、同様に進出計画を示したこと、建設用地をめぐる地権者等との交渉などが難航し、一時は10年以上にわたって計画が中断しました。平成15年になって旧鷹巣町が仲介役となり解決へ向けた調整を行ってきた経緯があります。

その後、両社とも、用地買収や農業振興地域除外・農地転用などの所定の申請などを行って出店計画を進め、マックスバリュは昨年12月、伊徳は今年1月に建設に着手、両モールとも主要店舗が5月に完成、このたびの開店に至ったものです。

■消費の圏域外流出阻止、雇用促進効果等の一方で既存商店街への影響も

2つの大型モール進出により、圏域外への消費の流出を食い止めることも地元雇用への貢献も期待されています。

一方で市内の既存店への影響も懸念されています。4月でいとく鷹巣店が閉店した鷹巣地区の中心商店街では、鷹巣店が入っていた建物のシャッターが閉められ、閉店前と比べて人通りが少なくなりさびしい状況。

地元商店会や各商店などでは、「軽トラック市」の開催、共通ポイントカード「DON DONカード」の導入など各種事業を実施することで商店街への誘客を図り、このような状況を打破しようとしています。